



学校だより

えげのやま

笑顔 元気 やる気 真心



平成24年10月

広島市立矢野南小学校

TEL 888-6811

FAX 888-6822

ホームページ <http://www.yanomiminami.e.du.city.hiroshima.jp>

前期と後期を区切る大きな節目がやって来ました。

先週、前期の南っ子の成長を表す大きな出来事がありました。第3回避難訓練でのことです。子どもたちが夢中になって遊んでいる大休憩、中庭では4年生が水しぶきを上げながら大歓声をとどろかしている真っ只中のことでした。突然サイレンが鳴り、続いて「訓練火災、訓練火災、理科室から出火しました！・・・」という放送。瞬く間に、子どもたちの動きが止まりました。放送の内容に真剣に耳を傾けています。担任の先生はそばにはいません。小声で声掛けをし合いながら真剣に集合場所へと向かいます。一人ひとりが「訓練はいつも本気で」「自分の命を自分で守ろう」と冷静に自分の頭で考え、仲間を信じて行動している様子が伺えました。抜き打ち訓練であるにもかかわらず743人が僅か3分40秒で避難することができました。避難場所での「ふりかえり」もほぼ集中して聴くことができたとあって、総合得点は99点でした。自他の『命と気持ち』を大切にすることを「学び合い」は緒に就いたばかりですが、道徳をはじめとした日々の授業を大切にすることで、南っ子が徐々に成長し始めてきているように思います。西区のニュータウンで連続発生している交通事故も、他人事でなく自分事としてとらえ、『かけがえのない命の重み』を考えさせながら交通安全の徹底も図っています。ご家庭でも機会をとらえて話し合ってみてください。

学校長 佛圓 弘修

学力実態調査から見えてきたもの

本年度の「基礎・基本」定着状況調査5年・全国学力状況調査6年の分析を報告します。

5年国語

○定着率が高かったもの

- ・ 第3学年の漢字の読み、第2学年漢字の書き。
- ・ 適切な語や接続詞の選択。

●課題が見られたもの

- ・ 主語・述語の関係。
- ・ 招待状を書く…下書きと清書を比べどのように推敲したかを選ぶ。
- ・ 段落相互の関係把握。

◎今後の取り組みの方向

- ※ 主語・述語といった学習用語を確実に理解させるとともに、低学年から主語を補いながら読むことの習慣をつけたいと思います。
- ※ 目的に応じた取材・構成・記述の力や推敲の習慣をつけていくことが求められています。
- ※ 自分の考えを持ち、文字や言葉で伝える経験を多く取り入れることが必要です。
- ※ 段落相互の関係に気づかせるための、必然性のある課題提示を工夫していきます。

5年算数

○定着率が高かったもの

- ・ 計算問題… $74 + 89$ $223 - 49$ 26×28 $357 \div 17$ $6/7 - 4/7$

●課題が見られたもの

- ・ ひし形の定義…三角定規4つを組み合わせた四角形がひし形になるわけを書く。
- ・ 180° を越える角度の測定。
- ・ 複合図形の面積を求める。
- ・ 伴って変わる数量の関係を立式する。

◎今後の取り組みの方向

- ※ 図形領域では、特に具体物の操作を十分に行い、図形の構成要素の理解を図るとともに感覚を身に付けることが必要です。具体から抽象への橋渡しをスモールステップで指導するようにします。
- ※ 思考過程を絵や図、表、文章で表すことを低学年の段階から授業に取り入れていきます。

6年国語

(A: 主として「知識」に関する問題 B: 主として「活用」に関する問題)

○定着率が高かったもの

- ・ 漢字を読んだり書いたりすること。
- ・ 質問や話し合いの仕方、音読や表現の効果などの知識に関するもの。

●課題が見られたもの

- ・ 学校新聞を書く。(6年A)…書き出しに続くリード文を制限字数内で書く。
- ・ 依頼の手紙を書く。(6年B)…メモをもとに敬語を用いて、制限字数内で書く。
- ・ 立場や意図を明確にして話し合う。(6年B)…資料をもとに自分の考えを制限字数内で書く。
- ・ 雑誌を効果的に読む。(6年B)…二つの記事を結び付け、考えの根拠を制限字数内で書く。
- ※ 記述式の問題への抵抗感が強い傾向が見えます。

◎今後の取り組みの方向

- ※ 基礎的事項は、個々のつまづきを分析し定着を図るようにします。
- ※ 情報の取り出し方、要約の仕方等の具体的手順を示し、活用できる力をつけていきます。
- ※ 条件に合わせて書くことを日常的に行うようにします。

6年算数

(A: 主として「知識」に関する問題 B: 主として「活用」に関する問題)

○定着率が高かったもの

- ・ 整数、小数、分数の計算、四則の混合した計算。
- ・ 測定値の平均を求める。
- ・ はがきの面積のおよそを求める。

●課題が見られたもの

- ・ 数量関係から基準量を求める。(6年A)
- ・ 日常事象の解釈と根拠の説明。(6年B)
…630円の代金を払うとき、1030円より1130円支払った方がおつりの硬貨の枚数が少なくなる訳を説明する。

・ 事象の観察と判断の根拠の説明。（6年B）…小型の跳び箱を5段70cmにした。中型の跳び箱も70cmにできるか、できないかを判断しその訳を言葉や数字を使って書く。

●今後の取り組みの方向

- ※ 分数や小数においては、1に当たる大きさを感覚的につかめるように工夫します。また、表や図をかいて解決できるよう、思考の過程を大事にしていきます。
- ※ 記述式の問題への抵抗感が見られます。思考の過程を説明できる表現する場を授業の中に取り入れていきます。

6年理科

●課題がみられたもの

- ・ 知識を問う問題の正答率が高いが、記述式の問題に課題。
- ・ 上記の問題のような観察や実験のデータを正確に読み取り、論理的に説明する力に課題。

◎求められている力と今後の取り組みの方向

- ※ 今年度より理科の問題が加わりました。日常生活や身の回りで見られる現象と関連づけた出題が多く見られました。学校で学習した知識や法則が実際の自然界や日常の中でどのように生かされているか、働いているかに目が向けられるような児童への働きかけが必要だと言えます。
- ※ 授業においては、実験や観察の機会を増やすとともに、実験や観察をする際には、論理的に説明できるようにノートに書いたりまとめたりすることも積極的に行うようにしていきます。

生活に関する意識調査より

「自分にはよいところがある」の設問で6年生では10%、5年生では19.2%の児童が「そう思わない」と回答しています。また、5年生の調査では、33.6%の児童が「自分のよさは、まわりの人から認められていない」と感じていることが分かりました。

「自分は大切にされている」「自分は役に立っている」ということが実感できるような声かけや励ましを意識して行っていく必要があります。また、授業においては、子どもと子どもが関わり合っていく「学び合い」を中核にした授業への深化を図りたいと思います。

自尊感情を育てるためには、家庭や学校が担う役割が大きいことは言うまでもありませんが、地域の方からの肯定的評価は、子どもにとっては大きな自信につながります。地域で育ててもらおうという視野も持ち、地域行事への積極的参加を促していくようにしたいものです。

9月のニュース

中庭オープン（9/10）

昔が生え、滑りやすいため立ち入り禁止になっていた中庭がリニューアルしました。9月に使い方についてのルールが決まり、念願のオープンを迎えることができました。



小川に入って楽しむ児童

5年野外活動（9/12～9/14）

…似島臨海少年自然の家…

- 1日目…登山・飯ごう炊飯
- 2日目…カヌー体験・平和学習・キャンプファイヤー
- 3日目…チャレンジ日本一周

矢野南小では、初めての似島臨海少年自然の家での野活。天候にも恵まれ、2泊3日の活動を無事終えることができました。野活のスタートは、いきなりの高いハードルでしたが、険しい山道を友だちと励まし合い、協力しながら無事クリア。キャンプファイヤーで誓った8つの力をどう生かしていくか楽しみです。



(17) 平和 2012年(平成24年)9月17日

「戦争」で喜ぶヤツがいる。それに反対して

「ゲン」中沢さん訴え熱く

広島矢野南小 児童と質疑交流

漫画「はだしのゲン」(73) 広島市中区 人の質問に答えて交流を深めながら、反戦と平和の大切さを訴えた。

中沢さんは、体育館で児童を迎えられ、次々に質問された。「つらい戦争の間、心の支えになったものは何か」との問いには「肉親の愛」と回答。「母親が朝から晩まで必死にならなくて働いて、育ててくれた。皆さんも両親組んで一生懸命生きてほしい」と述べた。

「何で(原爆をテーマにした)『ゲン』が一番に描かなかったのですか」の質問には、「死体の臭いや当時の惨状がよみがえってきて、思い出すのが嫌で逃げ回っていた。でも、少年ジャンプの編集長が『あなたの好きなだけのページ数と期間をやるから長期連載しないか』と言ってくれた。感動して描き始めた」と説明した。

「中沢さんにとって『平和』とは何ですか」については、「皆さんと、こうして自由に話ができ、意見を交わせること」と答えた。「戦争、原爆反対と言っ

は簡単だけど、なかなか絶対に対戦がいけないことを伝えていきたくて話していた。児童は事前に、平和学習用のDVD「はだしのゲン」を見たことを見て、中沢さんの半生を紹介した本紙連載「生きて」を読み合ったりした上で質問を考えていた。(井理江)

交流会を終え、拍手の中、児童に率いずる中沢さん